

# 留学生に対する防災教育 のあり方を考える -東京外国語大学での実践事例から-

東京外国語大学留学生日本語教育センター(JLC-TUFS)

宮城徹・花蘭悟・中井陽子

[tom@tufs.ac.jp](mailto:tom@tufs.ac.jp)

© T. Miyagi and S. Hanazono, Y. Nakai 2012

# 1. 発表の趣旨

- \* 東日本大震災後に行った、JLC-TUFSでの防災、特に震災対応に関するいくつかの試みについて報告する。
- \* それをもとに、現段階での問題点を洗い出し、他機関の方々との意見交換を行って、今後の防災教育の方向性を検討したい。

# 構成

## 1. 本発表の趣旨

## 2. JLC-TUFSにおける防災関連の活動報告

2-1. 留学生とつくる「JLC-TUFS災害対応マニュアル」  
プロジェクト(中井)

2-2. 地震を想定した避難訓練(宮城)

2-3. 日本人学部生による地震ワークショップの試み(宮城)

2-4. 防災教育のためのレベル別日本語教材開発  
プロジェクト(花菌)

## 3. まとめ

2-1. 留学生とつくる  
「JLC-TUFS災害対応マニュアル」  
プロジェクト  
(中井)

# 活動の目的・概要



- \* **目的:** 留学生が主体的に地震についての知識を学び、「災害対応マニュアル」を作成する
- \* **プロジェクトメンバー:** 教員4名、留学生寮チュータ1名、  
留学生9名、日本人学部生4名程度
- \* **時期:** 2011年度11月～2月(計7回)
- \* **活動内容:**
  - (1) 地震や防災についての基本的な知識を学習
  - (2) 留学生寮用の「災害対応マニュアル」を協働で作成

# 作成した「災害対応マニュアル」

- \*「地震の前」：非常時の連絡・避難方法  
の事前確認、非常袋の中身など
- \*「地震の最中」：落ち着いて行動し、いかに身を守るか、情報を得るか
- \*「地震の後」：怪我人がいるかの確認と対処法、  
避難の流れ

シンポジウムで発表！

# 地震の前

## 1. 心の準備



- まず日本では地震が起こることを知っておくこと！油断は禁物。
- 緊急時の連絡の方法を家族と相談する。
- 前もって次のことについて調べておく：
  - ✓ ゆれたときの行動（何をすべきか）  
（\*詳しくは「地震中」のところマニュアルを見る）
  - ✓ 応急手当の仕方
  - ✓ 避難場所と必需品を手に入れる場所
  - ✓ 消火器の場所
  - ✓ 非常口の場所



## 2. 部屋の片付け

- （地震のときに倒れないように）テレビなどを固定しておく
- ベッドの隣に靴（スニーカー・ブーツなど）とヘルメットを置く
- あまり高いところに物（特にガラス製品など）を置かないようにする
- 重たいものは自分より低い場所に置いておく
- 包丁などの刃物を出しっぱなしにしないようにする
- 出入り口にあまり物を置かない



## 3. 非常袋

- 貴重品（パスポート・外国人登録証明書・お金(+)・保険証・運転免許 etc.)
- 水や非常食（乾パンなど）
- 着替えやタオル
- ティッシュ（トイレトペーパーでも OK!）
- 地図
- ラジオ
- 防寒具（毛布、銀のブランケット\*、キッチンラップ、使い捨てカイロなど寒さから身を守るもの）
- \*軽くて暖かいアルミのブランケット
- 懐中電灯
- アミーナイフ



## 地震の最中

# DO NOT PANIC!

落ち着いて、行動する

あわ そと で  
→ 慌てて外に出ない

Do not run outside until the shaking has stopped!



あたま からだ まも  
→ 頭・体を守る

Cover your head and yourself!

(机の下に入る、倒れそうなものから離れる)



でぐち たし  
→ 出口を確かめる

Confirm the exit way!



よしん ゆ き つ  
→ 余震（そのあとの揺れ）に気を付ける

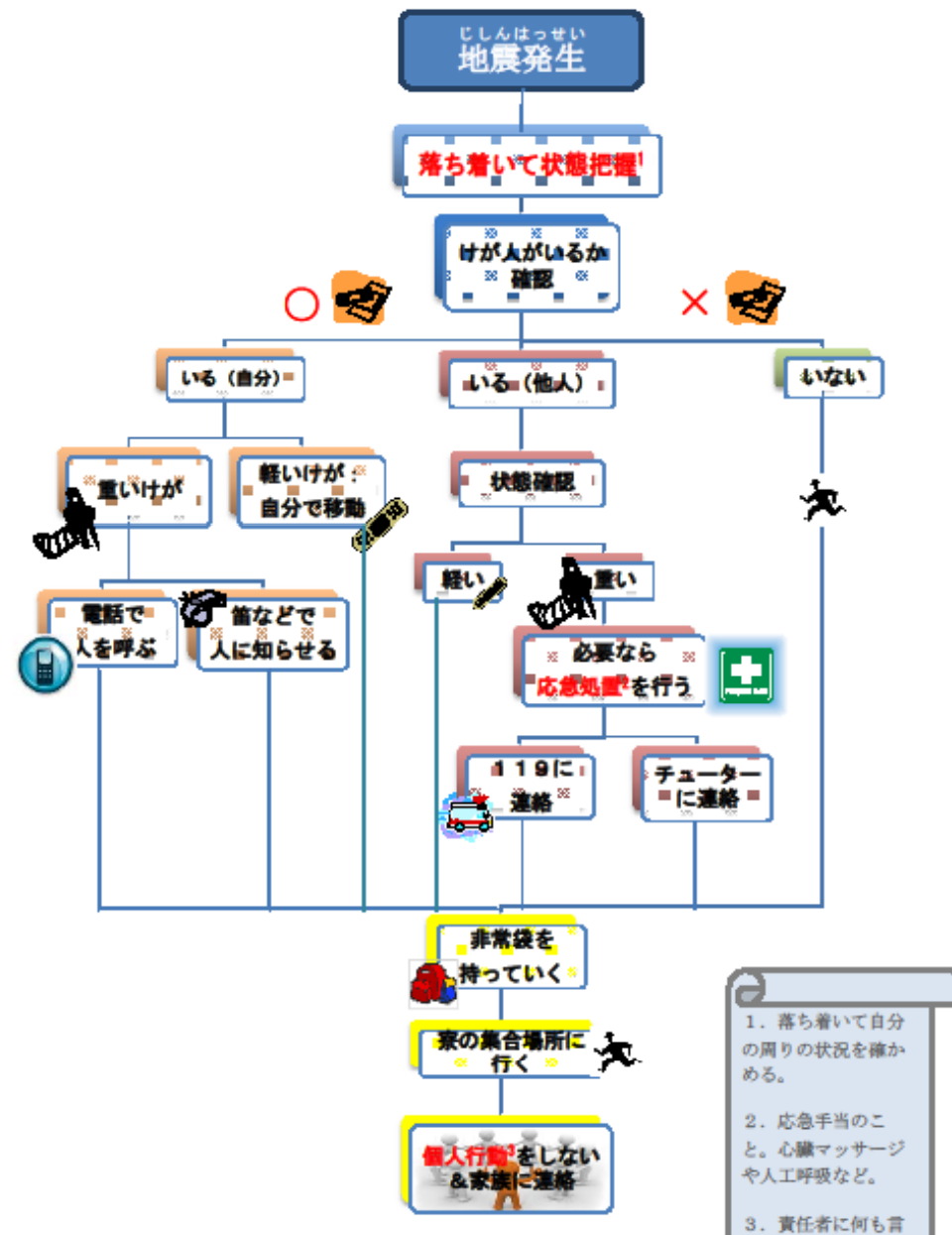
Keep in mind about the aftershock!

てれび らじお  
→ テレビ/ラジオをつけておく





じしん あと  
地震の後



# 参加者のコメント

## 留学生のコメント

- \* 協働で災害対応マニュアルを作成するプロセスを通して、地震時の様々な状況を具体的に考えながら防災に関する知識を得た。
- \* 情報へのアクセスの方法を学び、自分たちに合ったマニュアルが作成できた。

## 日本人学部生のコメント

- \* 留学生との話し合いを通して、日本の学校で当然のように学んできた防災の知識や行動を客観的に見つめ直すことができた。

# 考察・今後の課題

## 今後の課題

- \* 防災知識とそのアクセス方法を学ぶだけでなく、  
震災時に**適切な行動**がとれる  
**訓練**の必要性

## 2-2. 地震を想定した 避難訓練から学ぶ (宮城)

# 活動の目的・概要

- \* **抜き打ち的**避難訓練→問題点を洗い出し、関係者各人の意識を顕在化させる。
- \* 実施日時：2012年4月20日（**来日直後**）の1時限目と2時限目の間の**休み時間**。
- \* 緊急一斉放送 → 放送の指示に従って、屋外に避難。

# 事後アンケートから見る問題点

- \* 放送用機器に不慣れ
- \* 日本語・英語の表現の工夫
- \* 避難ルート、避難方法の再検討
- \* 防災に関する情報を授業に組み入れることの必要性
- \* 教育機関側からの安否確認の限界

# 考察・今後の課題

- (1) 大学側の防災に対する大枠の整備とともに、  
教職員各自の積極的行動、判断力の必要性。
- (2) 防災の専門家との連携の必要性。
- (3) 備蓄(食料・飲料水)に関する情報の周知。

●防災意識を高める活動の  
授業の中への組み入れ

●教職員間での意識  
の共有化

2-3. 日本人学部生による  
留学生に対する  
地震ワークショップの試み  
(宮城)



# 活動の目的・概要

- \* 学部生ボランティア組織メンバーによる地震ワークショップを実施。
- \* 2012年6月、留学生(約25名)対象の「多文化コミュニケーション」授業内で実施。
- \* ワークショップの目的: 教員の視点から一方的に情報を提供するのではなく、学生同士の立場から地震について考える活動を通して、防災意識を高めること。

# 授業の実際

- \* 日本人学部生：事前学習で知識を更新、整理。
- \* 4つの地震関連ゲーム：留学生に絶えずグループで考えさせる。
- \* 留学生と共に、「唯一の正解」ではなく、「より安全で現実的な解答」を考えた。
- \* 日本人学部生・留学生双方の学び合いがみられた。

# 考察・今後の課題

- \* **考察**: 留学生・日本人学部生・教員のそれぞれが防災意識を高め、自ら積極的に学び続ける必要性を自覚する機会となった。
- \* **今後の課題**: 活動の中で扱えなかった「街中(都心)で地震に遭遇した場合」「国際交流会館(寮)室で地震にあった場合」などを扱う必要性。

# 2-4.防災教育のためのレベル別 日本語教材開発プロジェクト (花崗)

# 活動の目的・概要

- \* テレビなど地震関係のニュースで放送される震災用語が聞いて分かるようになるための防災教育の教材作成
- \* 開発中の教材の一部を用いて授業実践

# 教材作成とその試用

## 1コマ目・話し合い

a.「自国・日本での地震の体験」

書く→発表

b.「日本での地震に対する備え」

少人数で話し合う→全体討議

## ・文章の読解

「地震は明日にでも起こるかもしれない」

2コマ目 聴解:キーワードとなる語彙の一覧を確認

→実際の地震時のニュース放送を聴解

3コマ目 タスク:様々な地震の場面への対処について

PC教室のインターネットで調べて発表

## 地震国－日本

a. 次の点について、書いて、発表してみよう。

1. 自分の国で地震を体験したことがありますか？

2. 地震が起こった時、自国ではどのようにするように言われていましたか？

.日本で地震を体験したことがありますか？

b. 次の点についてグループに分かれて話あってみよう。

1. 日本で大きい地震が起こった時、すぐには何ですか

2. 地震が起こった時のために、どんなものを準備しておけばいいと思いますか？

### トピック 3

#### ◆震災時のニュースを聞く

##### 1. 震度、マグニチュード…

地震	
震度	
マグニチュード	
～強、～弱	
1.5 3.9 9.0	(読み方)
震源	
深さ	
推定する	

【語彙・確認問題】長野県南部を（ ）とする、（ ）

7.9の地震が起こりました。東京地方の（ ）は5強、神奈川では6弱です。なお、（ ）の深さは約10キロメートルと（ ）されています。

#### ◆聴解 (<http://www.youtube.com/watch?v=lrAV-qzBkwU>)

①

・どこで地震が起こったか？

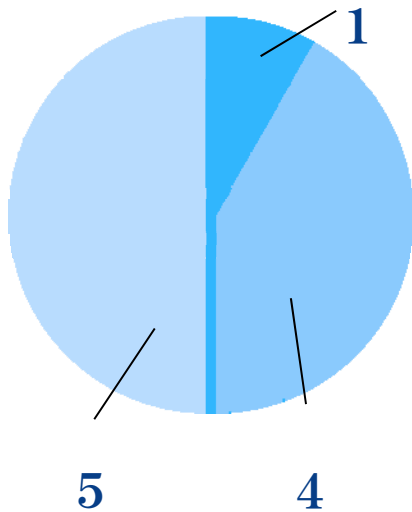
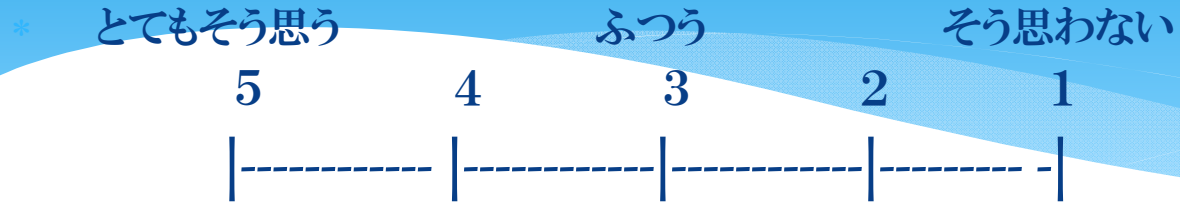
・震度とマグニチュードはそれぞれいくつ？



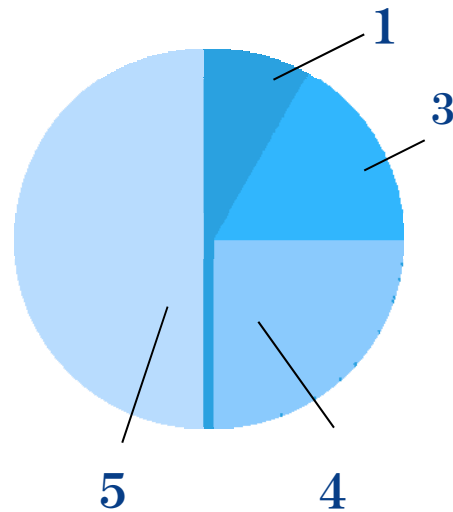


# 学習者のコメント

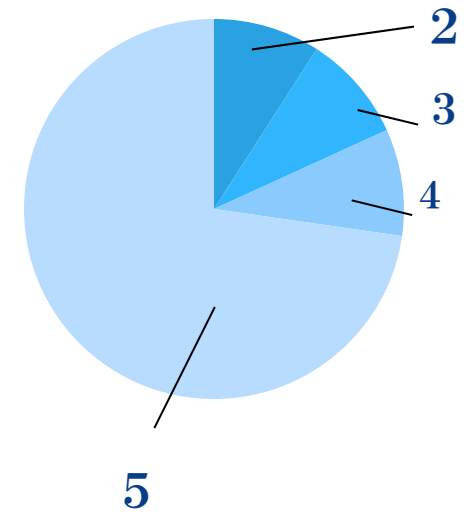
\*以下の各項目について評価してください



1.地震についての授業は役に立ちましたか？



2.地震についての授業はおもしろかったですか



3.このような授業を来日直後の学生に、教えた方がいいと思いますか？

# 考察・今後の課題

- ・ニュース報道などからのさらなるデータの収集・蓄積
- ・重要な「震災語彙」を扱った教材の作成（初級・中級・超級）とその検証

# 3. まとめ

留学生

地域の人々

日本人学部生

教員

専門家



協働

# 「自助、公助、共助」の姿勢



## 公助

大学の体制

2-2.避難訓練



## 自助

自身の身は  
自身で守る



## 共助

留学生同士  
日本人学生  
地域の人達



2-1.災害対応マニュアル作成

2-3.防災ワークショップ

2-4.防災教材の開発と試用

# 参考文献

- \* 池田玲子(2007)「第1章協働とは」池田玲子・舘岡洋子(著)『ピア・ラーニング入門－創造的な学びのデザインのために』pp.1-19 ひつじ書房
- \* にほんご教育の「八の会」(2006)『あっ、地震だ！どうする？－日本語学習者のための地震防災マニュアル(2006年改訂版)－英語・中国語・韓国語の語彙表付き』 にほんご教育の「八の会」
- \* 松田陽子(1997)「非常時の対応のための日本語教育－阪神大震災関連調査からの考察－」『日本語教育』92号pp.13-24 日本語教育学会
- \* 宮城徹・花蘭悟・中井陽子・ハリソン、リチャード・土屋順一(2012) パネルセッション「留学生と日本人学生の協働による「学び」」『東京外国語大学留学生日本語教育センター統合20周年記念国際シンポジウム予稿集』pp.53-63 東京外国語大学留学生日本語教育センター